

# 日本野鳥の会東京

## 東京湾岸における鳥類生息 記録集の作製



助成区分

植栽

環境保全

調査・  
研究

教育・  
啓蒙

実施状況

執筆・編集者17名

作成編集会議12回

活動の全体目標に  
対する達成度

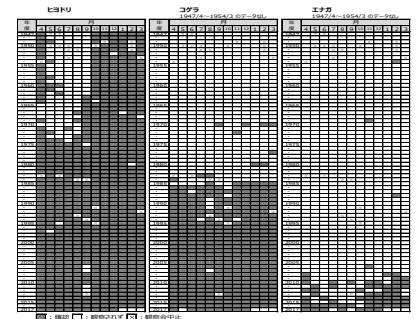
100

### 活動目的

長年記録してきた観察データを整理し、多くの人に理解でき、社会的にも活用できるような形にする。

### 活動内容

当会では、東京・千葉の10か所で定期的な探鳥会を実施している。前回2016年に、本助成で『東京の野鳥たち～月例探鳥会7か所・20年間の記録～』を発行した。今回はその続刊として、残りの3か所の探鳥地の記録を整理するとともに、東京湾岸に位置する5探鳥地に生息する鳥類の状況を比較・検証した。さらに、70年～50年余の歴史を持つ、明治神宮・高尾山・新浜の探鳥会の記録をまとめ、『東京の野鳥たち・2～月例探鳥会3か所・20年間の記録 および明治神宮・高尾山・新浜の長期記録～』を作成し発行した。  
〔グラフは、明治神宮の森林性の鳥の変化のようす〕



### 成果

月例探鳥会は、毎月同じ曜日の同じ時間帯・コースで実施しているので、長年続けていけば「調査」になり、「データ」となる。今回、当会としては初めてまとまった形でそのデータをまとめた。10か所の探鳥地は海辺・都心部・市街地・山地・川と、それぞれ環境が違い、場所的にも点在している。また、それぞれは地域の自然環境を代表するような場所なので、そのデータを「見える化」したことは、今回の大きな成果である。次いで、月例探鳥地10か所については、20年間、大まかながら個体数も記録しているので、定量的にその変化を知ることができ、分析も試みることができた。さらに、明治神宮・高尾山・新浜の半世紀におよぶ自然観察記録の事例は、全国的にも珍しいことで、「資料」になりうる内容になったと考えている。

### 工夫した点

今回の報告書作成においてもっとも力点を置いたのは、データをなるべく多くの人に“わかる”ようにすることで、ひとめでその変化がとらえられるようなメッシュグラフを多用した。また、報告書には紙ベースでは掲載できない量のデータの存在を示唆し、その検索的な役割を持たせ、今後のさらなる検証への道しるべとなるようにした。

### 今後の課題

今回の作業でデータを電子化したので、今回できなかったような高度な分析・解析を試みたい。また、内容を平易にし、よりわかりやすい形にしていきたい。さらに「本」として、多くの人々が活用できるようにしていきたい。